

# M-CIM研究会 調査の生産性向上に

## 3次元データ有効性をPR

### 会員 実働6社、賛助2社



M-CIM研究会 代表  
(元補修技術設計代表取締役)  
**中馬 勝己氏**

M-CIM研究会は発足から10カ月が経過した。生産性向上を命題に、3次元データの活用、普及を目指す。研究会事務局の補修技術設計が4年間で蓄積したノウハウを惜しまなく貸与する取り組みが旨とされる。中馬勝己代表（補修技術設計社長）に目的、方針などを聞いた。（阿部清司）

元データの有効性を世に広めたい。Mはメンテナンスの意で、構造物維持管理を入口にCIM推進を理念として昨年9月に発足した。

3次元の利点は、幅減、遠隔非接触計測のため業務の安全確保、リアルデータを将来の維持管理業務に活用可能な点が多い。3次元や技術面で実現が難しく、情報共有しながら3次元で構造物の全貌、他に巨匠開発した「メ

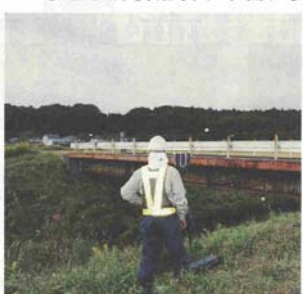
おその寸法を把握し、しているかのような感覚、エアがけい、チェックは、勤員が2〜3年で3次元データにより形状を把握できる。現場での人がどのようにすれば点元を使いこなせるように細部の構造物を室内にデータ収集は機械が、簡便なコストの大幅な削減が期待できる。

3次元の普及や目録の生産性向上を目指していた。今秋の総会で会員となる。元計測システム化による3次元実用事例の発表に、業務処理体系の改善も促されは幸いした。

### 業務処理体系の変革にも

#### メットカメラのレンタル開始

会の運営は、メットカメラのレンタル開始。中馬、現在、実働会員6社、賛助会員2社、そのヘルメットに専用カメラを装着し、携帯端末に映像を送り、現場作業員とネットワークを構築し、現場状況をリアルタイムで確認できる。例えば、点検作業を並行して進め、作業の効率化に寄与する。



3次元システムの使用状況

### 新製品 現場とのリアルタイム通信システム(メットカメラ)

#### レンタルサービスははじめました

現場と事務所を音声と映像でリアルタイムにつなぐシステムです。点検業務や工事現場、製造工場等での利用が可能です。

- 現場側の装備はヘルメット装着の小型ウェアラブルカメラ、無線イヤホンマイク、タブレットPC
- 事務所側はWindows/パソコン1台とWebカメラ、マイク
- 現場側と事務所側の通信は、最大4chまで接続が可能

Webカメラ

小型ウェアラブルカメラ

マイク

タブレットPC

無線イヤホンマイク

お問い合わせください!